## 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮別所小学校】

6	次年度への課題と学力向上策		
知識·技能	次年度に向けて		
思考·判断·表現	<b>未評価</b>		

<b>①</b>	今年度の課題と学力向上策			
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期·頻度】	
知識·技能	(学習上の課題> 基礎基本の習得 国語「読む」算数「数と計算」社会「憲法の 意味」理科「エネルギー」 に正答率が低い傾向が見られた。 <指導上の課題> 児童の学習習慣や生活経験に差がある。基本的な語句や計 算の意味等を理解を練り返し行っていく必要がある。	⇒	・前時を振り返る問題や掲示物、また多様なワークシートやドリルバーク、書き込み式のドリル等を用いた練習問題により、個別の基礎学力の定着を図る、【毎時間】 ・教材機断的な視点で学習問題や適用問題を提示し、汎用力を育成する、【単元こと】 ・「学びのシンキングサイクル1を用いた児童との学習過程づくりやめあて達成のための参様な学びのメンキングサイクル1を用いた児童との学習過程づくりやめあて達成のための参様な学びのスタイルの設定により、児童が見通しをもち、主体的に学習を進めることができるようにする。【単元ごと】	
思考·判断·表現	<学習上の課題> 算数「数と計算」2数の関係の数式化、「変化と関係」の速さ の公式を扱う問題等、個別の内容を関連付けて思考することに課題がある。 くに課題がある。 台分の言葉で表現し、資料や情報の見方を高められるよう な授業実践を行う。	⇒	根拠資料や根拠となる情報をもとにして、自分の考えをまとめる活動を多く取り入れる。協働的な学びを通して、深い学びにつなげられるようにオクリンクプラス等を活用する。【単元ごと】ができるようなったのか、どう生かしていくのか」等の視点で振り返りをするようにし、学習したことや自分ができるようになったことを言語化し、関連させて考え、豊かに表現する力を高められるようにする。【単元ごと】	

## <小6・中3>(4月~5月)

思考·判断·表現

5	評価(※)	調査結長学力向上策の実施状況	
知識・技能		古果分析(管理職・字年主任等) 詳細分析(学年・教科担当) 分析 <u>共有(</u> 児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	児
思考·判断·表現		結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

4	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識·技能	
思考·判断·表現	

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察) 国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」の漢字の書き取りの正答率が全国平均や埼玉県平均を下回っている。漢字を文の中で正しく使うことに苦手を感じていたり、普段から学習した漢字を活用していなかったりしている児童が多いと考えられる。算数では「数と計算」の数直線上に示された数を分数で表すことの正答率が極端に低い。数直線の1の目盛りがいくつなのかを理解できておらず、基本的 学力の向知識·技能

な知識の習得に課題がある。理科では「粒子を柱とする領域」の知識・技能に関して、平均点よりも低い傾向にある。その他の区分に関し ては、全国と比べて比較的正答率が高い。R7全国学力・学習状況調査の児童質問の「ICTを活用した学習状況」において、肯定的な回答 が多い。タブレット等のICT機器を活用しながら、基礎的な知識や技能を定着させていきたい。

国語「書くこと」において、図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや「読むこと」の事実と感想、意見な どとの関係を叙述をもとに押さえ、文章構成を捉えて要旨を把握することに課題がある。算数では図形の面積の求め方を、式や言葉を 用いて記述することや答えの理由を言葉や数を用いて記述すること等、自分の言葉で考えて表現することに課題がある。理科では正答 率が全国平均や埼玉県平均を基本的に上回っているが市平均は超えていない。R7全国学力・学習状況調査の児童質問の「各教科など で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」という項目で肯定的な回答の割合が9割を超えているが、記述 式や短答式の正答率が低い傾向にあるので、算数同様、自分の言葉でまとめ、表現していく力を育成していきたい。

## ②詳細分析(学年·教科担当)

3	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期·頻度】
知識・技能	B 中間i	学習内容を振り返る問題やワークシート、書き込み式のドリルを用いて、個別の基礎学力の定着を図っている。 夏休みにはオンラインドリル等にも取り組ませている。 「学びのシンキングサイクル」の活用については、クラス や教科によってはおっさかある。児童が見通しをもち、 主体的に学習を進めることができるようにするために、 研修や授業実践を通して、教職員の意識を高めて行く必 要がある。	変更なし
思考·判断·表現	目標・f	オクリンクプラスを活用して自分の考えを伝えたり、説明 したりする活動を意図的に設定することも多くなった。 また、協働的に学ぶことで、自分の言葉で表現する児童 も少しずつ増えてきた。投業の終わりには振り返りを行 い、何を学び、何かできるようになったのか1等を自覚 できるようになってきた。研修で学年に応じた振り返り の観点を作成しているので、今後はそれを活用していき たい。	変更なし